

# 根深ネギ



## 育苗

苗床の準備

播種・仮植までに  
20日以上の間隔をおく



苗床1アールあたり

●ラクトバチルス100g

●堆厩肥 200kg

●畑の大将<青> 10kg

※堆厩肥にチッソが  
足りない場合、硫  
安10kgを施用。

散水時

(葉面散布・灌水)



●根っ酵素500倍液 →根を強く動かし、生長を促進。

●花咲くCa液500倍 →茎葉を厚く充実させ、健全な体質を作る。

●アミノ酸液500倍 →肥切れの時に。

※本葉3枚の頃、酵素500倍液を葉上からたっぷりとかけ、根の張りを強くする。

※本葉4～5枚の頃、生育状態を見て、アミノ酸液500倍液を散布。

(または硫安2kgを施用)

※仮植後、酵素500倍散布で根を張らせる。

※仮植1週間後、アミノ酸液500倍液を散布する。(または硫安2kgを施用)

※苗が細く、伸びすぎようなら適宜、花咲くCa液500倍を散布して、親指ほど太い苗にする。

※苗の根が弱い場合には、酵素500倍液を使って根を張らせ、植いたま  
なく活着させる。(苗へ散布、または定植後灌水)

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
本畑の地力作り	なるべく早い時期に投入し、なるべく深く耕耘する (定植までに20日以上の間隔をおく)	●ラクトバチルス600g →通気・保水・保肥性がよく、深層まで肥沃な土を作る。 ●堆厩肥2トン～(なるべく多く)※前作の茎葉もなるべくスキ込み。 ●硫安100kg(N成分:21kg) ●畑の大将<青> 60kg ※ケイフンを500kg前後投入する場合は硫安を80kgとする。 ※微生物により地力化し、定植時には土壌EC:0.2以下と抑えられる。 ※カリ成分12kg程度は吸収するが、むしろ堆厩肥によるカリ過剰に注意。 ※チッソ多肥になるので土壌の酸性化に注意。もし土壌pHが極端に酸性(pH:5.5以下)なら、地力作りにも畑の大将<青>を増量する。
追肥	定植前後	苗のドブ漬け・植付け後に灌水 ●根っ酵素500倍液 →初期の根張り促進、病害軽減。 原則として、初期には肥料を効き過ぎにしない事。 ※チッソを切らせて、根を張らせることが大事。
	定植後45日頃	ウネ上に散布 ●硫安30kg+畑の大将<青> 30kg ※特に分ケツ・生長を早く進めたい場合は、硫安60kgの追肥とする(又は硫安の代わりに乾燥ケイフン500kg前後)。 ※この間はネギの状態を見て、チッソ(硫安)、畑の大将<青>、花咲くCa液、酵素で適宜コントロールする。
	最終土寄せ時	ウネ上に散布 ●硫安30kg+畑の大将<青> 30kg ※特に生長・肥大をうながしたい場合は、硫安60kg～80kgとする。 ※またネギの充実と品質向上のために畑の大将<青> 30kgを同時に施用すると大変効果的(または花咲くCa液葉面散布)。

### 症状別対策

葉先枯れ症状・葉折れ症状……………根が弱っているので、根っ酵素500倍の葉面散布か、灌水。(半月ごと定期散布が効果的)  
葉が軟弱、細い、ベト、キンカク、腐敗病……………カルシウム不足なので、花咲くCa液500倍の葉面散布。(半月ごと定期散布が効果的)  
サビ病、ボトリチス、疫病……………まず、根っ酵素500倍葉面散布、次に花咲くCa液500倍葉面散布。  
土壌病害・線虫・連作障害……………①元肥時(定植前)にマンゾク粒状50kg ②生育途中で酵素300倍灌水・葉面散布。